９ 月 定 例 記 者 懇 談 会

平成26年9月5日

○　夏季安全推進活動期間における
　　マリンレジャーに伴う事故発生状況（速報値）

第九管区海上保安本部

平成２６年９月５日

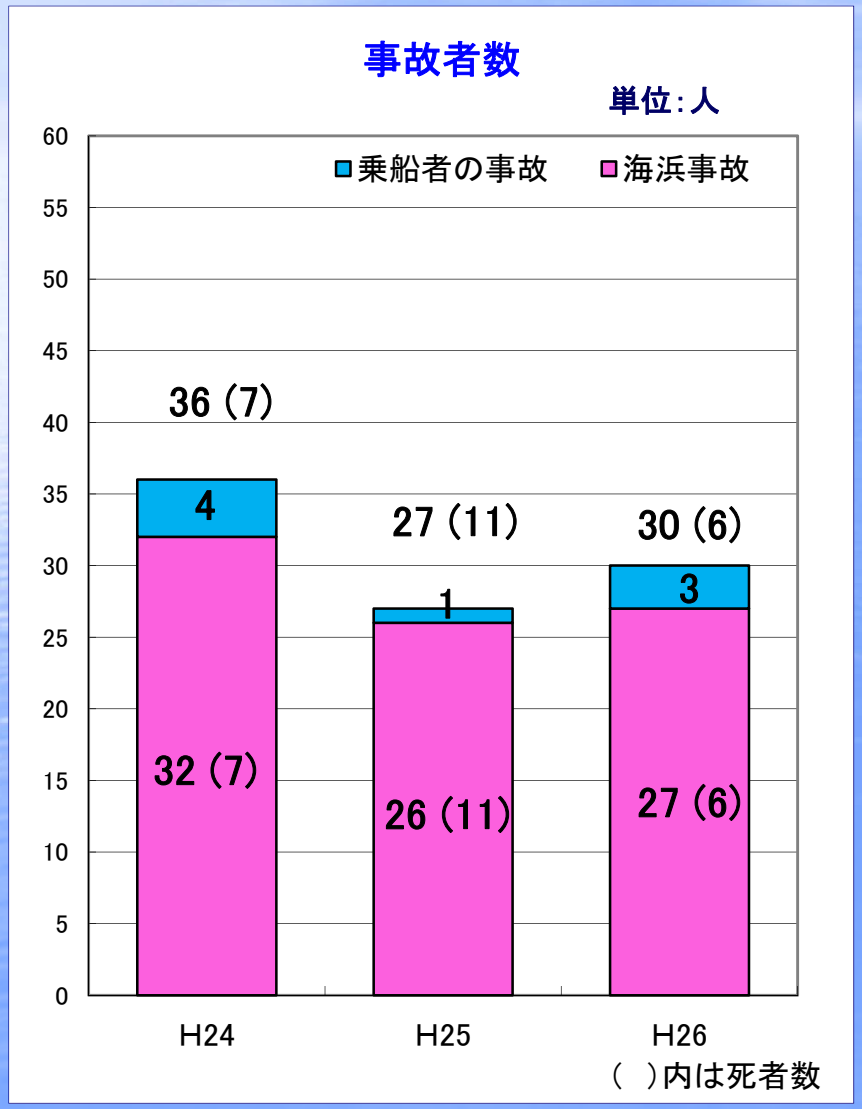
夏季安全推進活動期間におけるマリンレジャーに伴う事故発生状況（速報値）

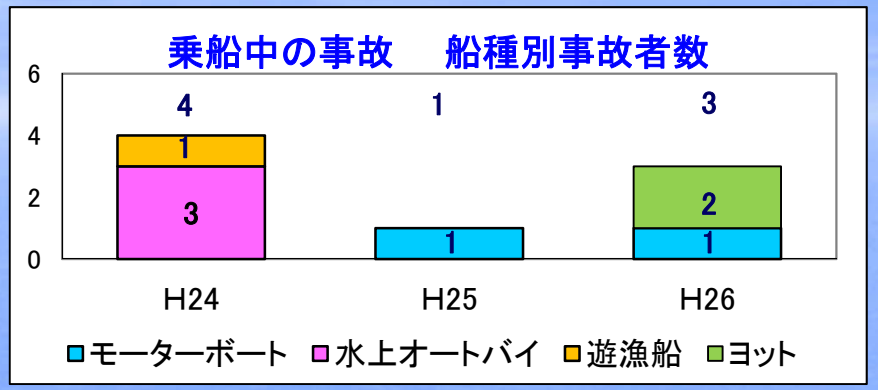
（７／１～８／３１）

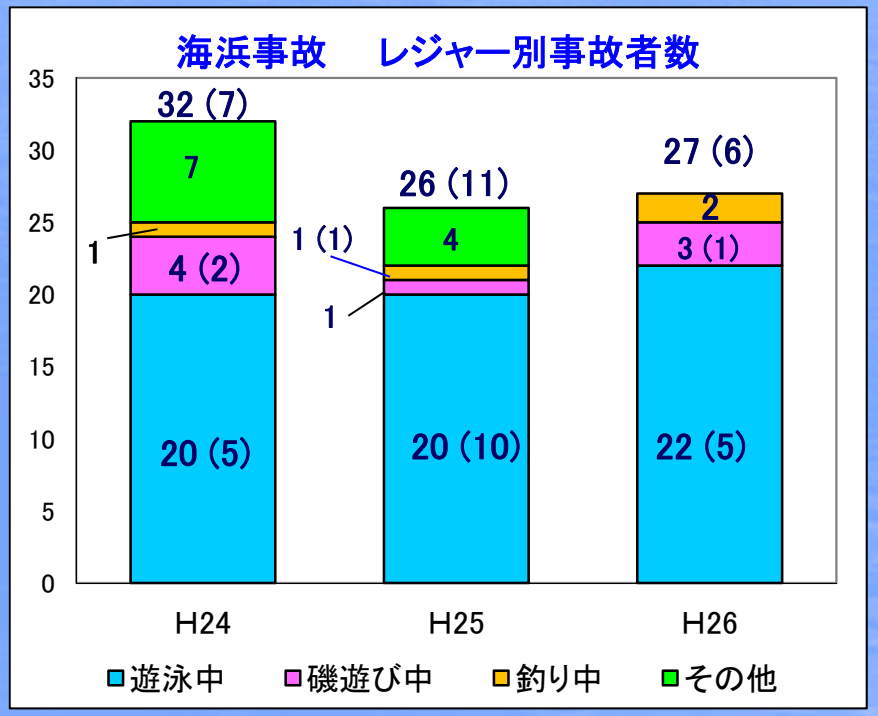
第九管区海上保安本部マリンレジャー安全推進室

人身事故

事故発生状況（九管区内）

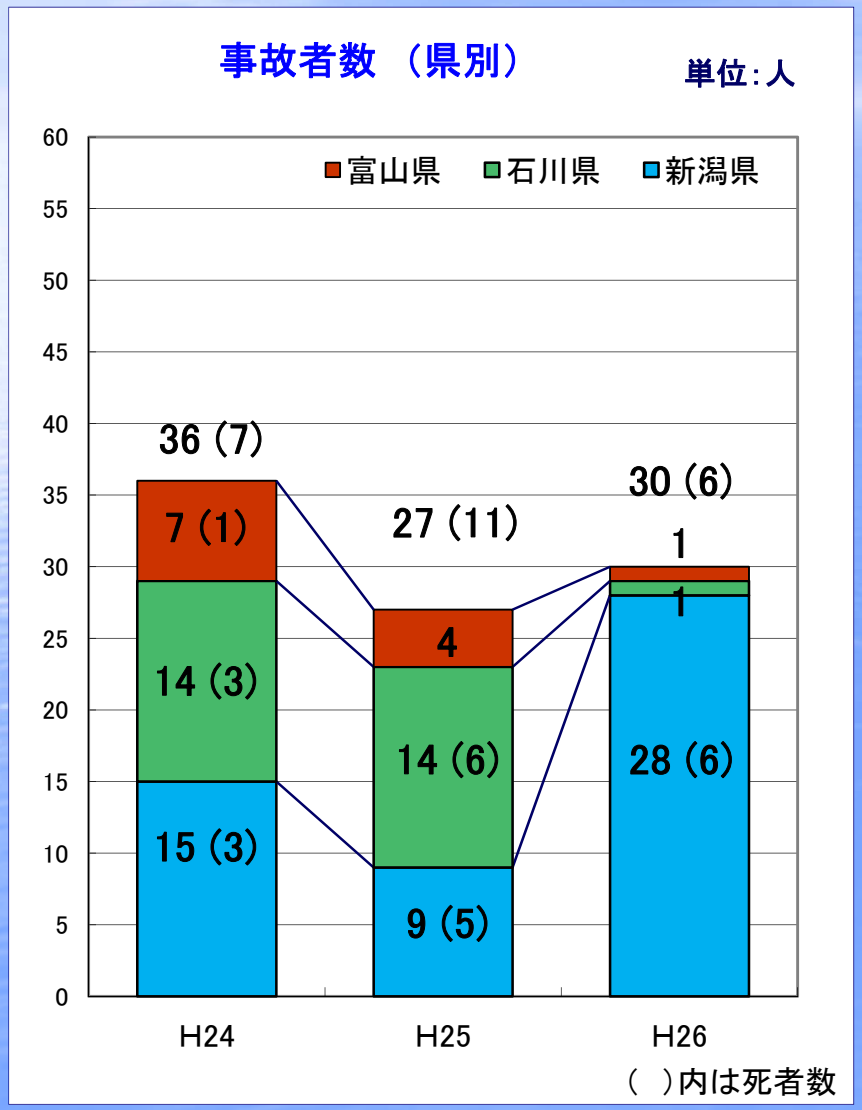


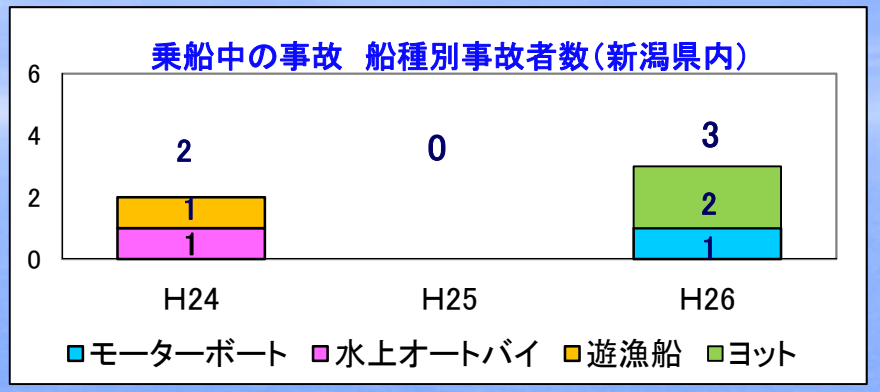


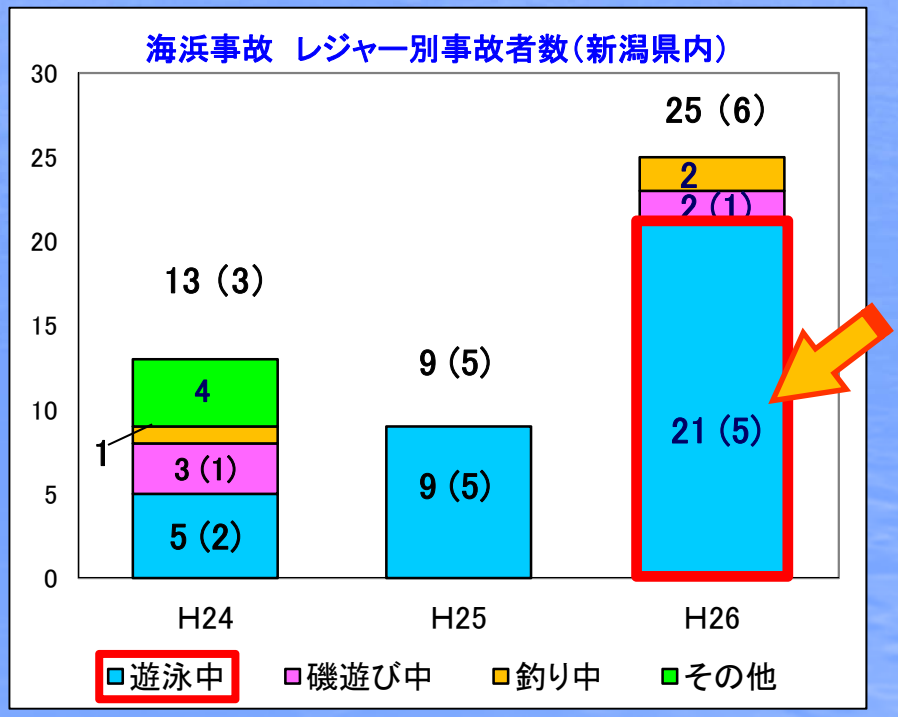


人身事故

事故発生状況（県別）

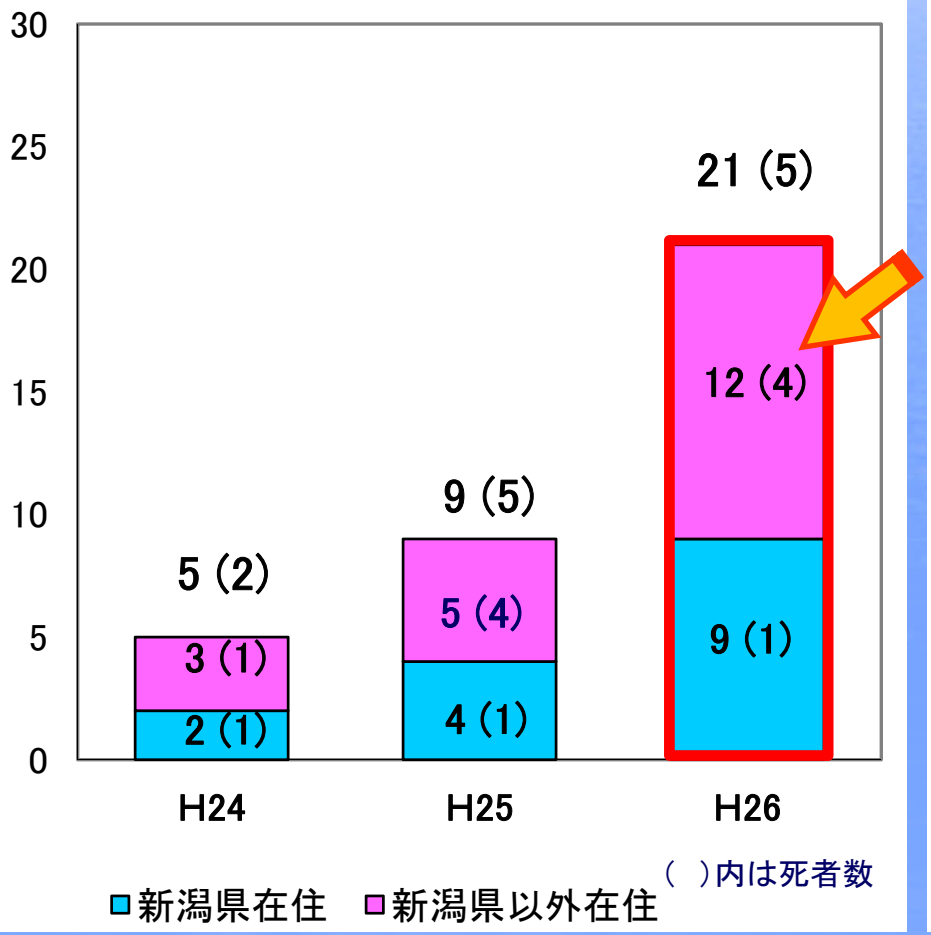




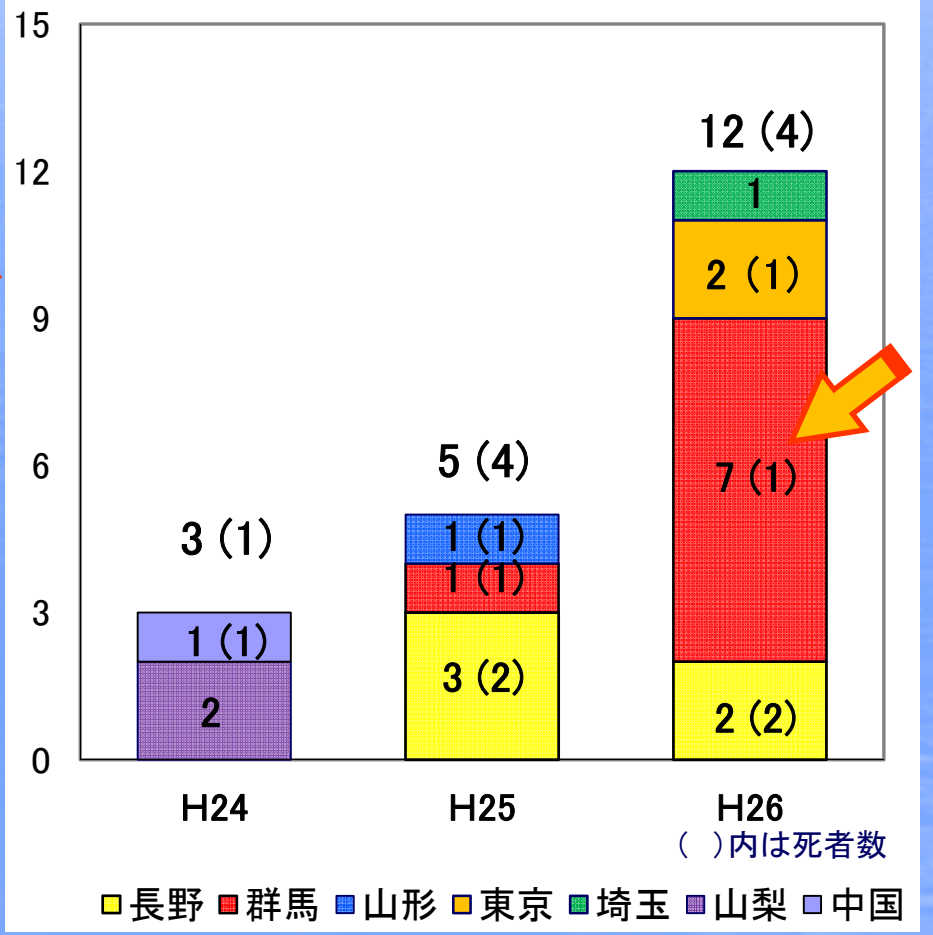


人身事故
新潟県内での遊泳中の事故発生状況
（居住地別）

居住地別事故者数



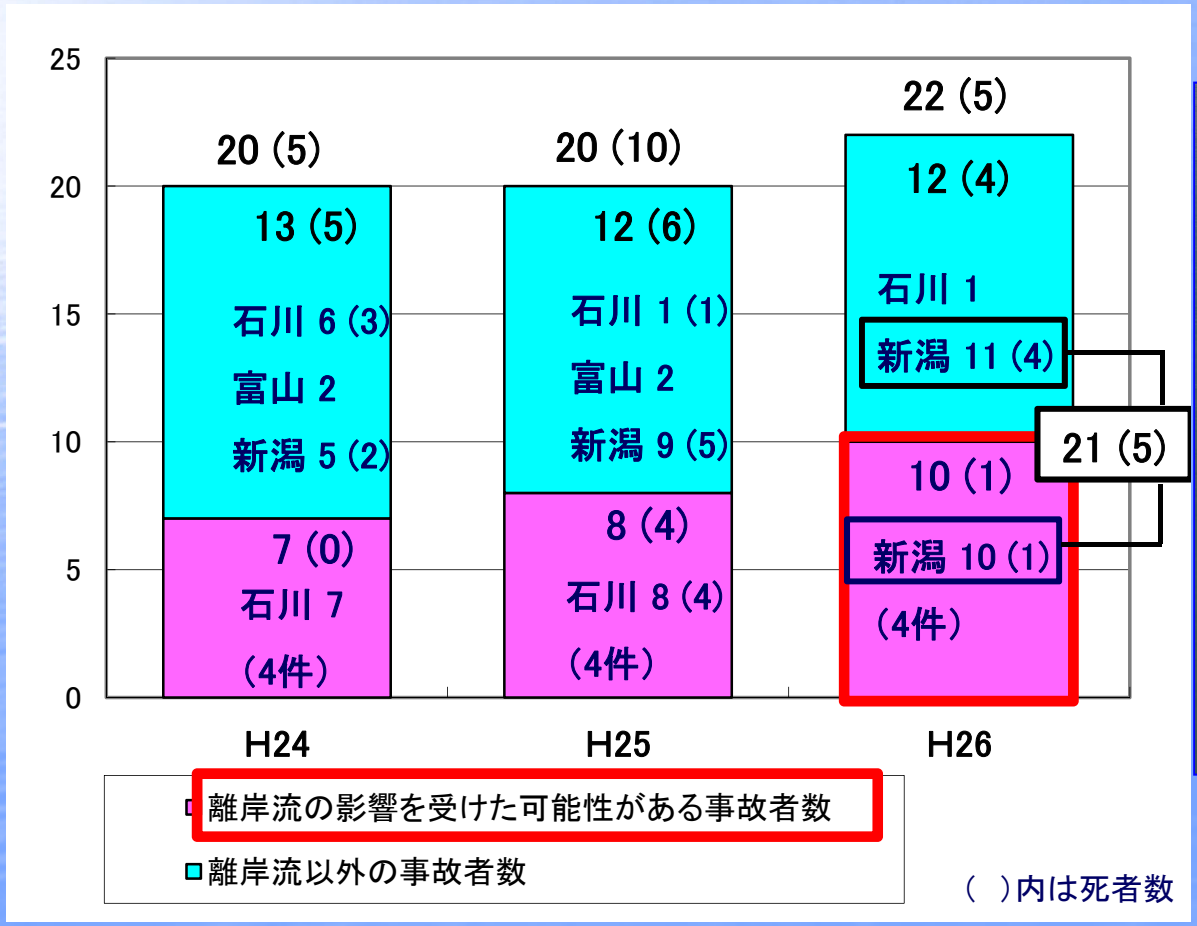
県外者の居住地別事故者数



人身事故

遊泳中の事故における離岸流の影響（九管区内）

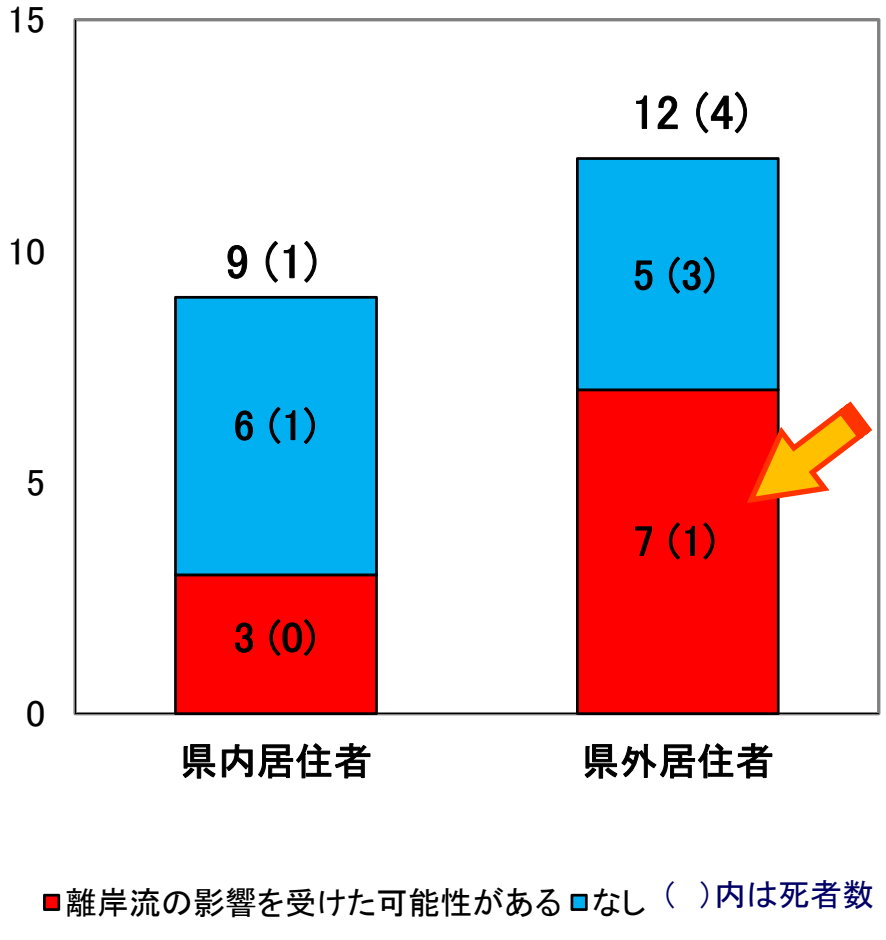
夏季（7月、8月）における離岸流の影響を受けた可能性がある事故発生状況



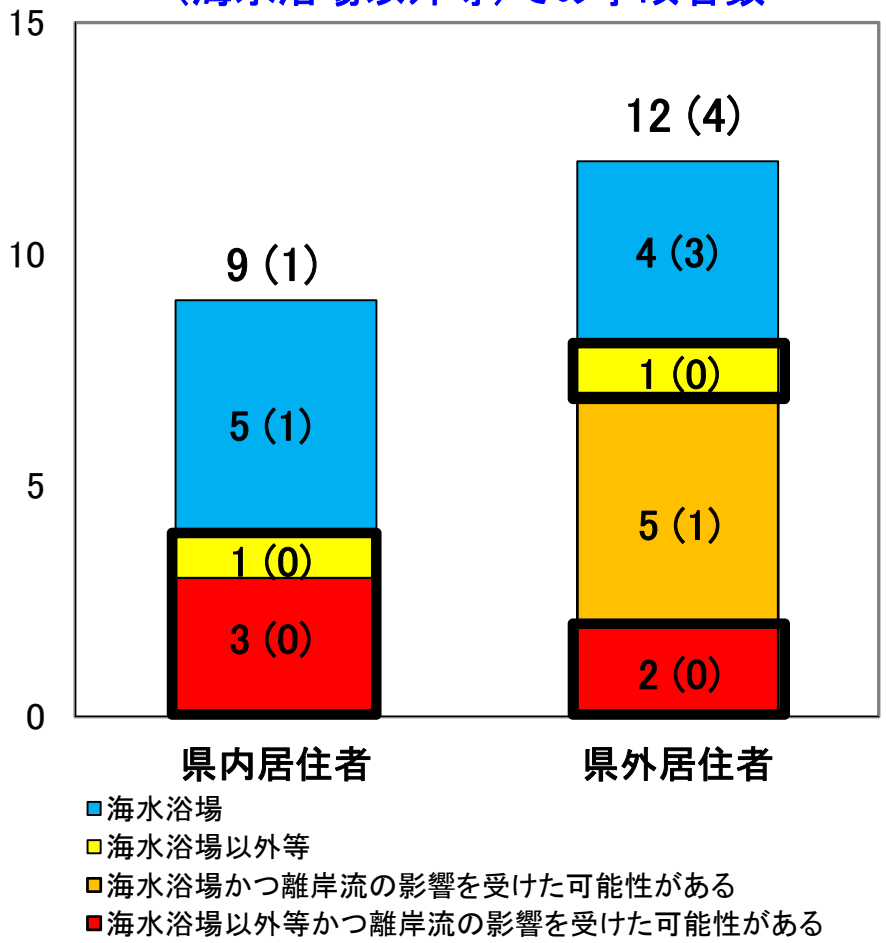
離岸流調査

人身事故
遊泳中の事故における離岸流の影響
（新潟県内）

県内外別事故者数

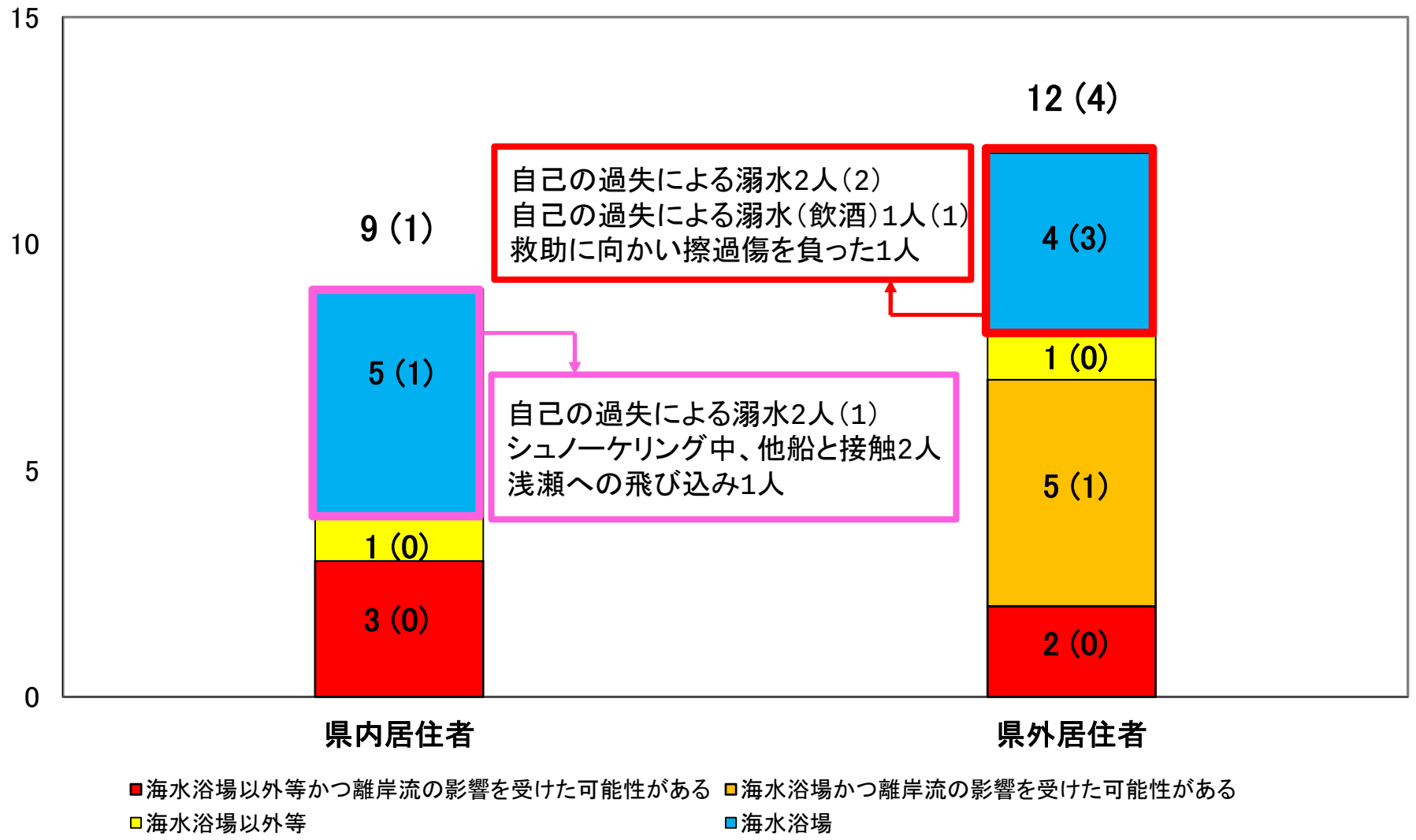


海水浴場以外、遊泳禁止中の海水浴場（海水浴場以外等）での事故者数



人身事故

遊泳中の事故状況（新潟県内）



人身事故

事故事例（九管区内）

・離岸流の影響と考えられる遊泳中の事故

① 7月27日12時30分頃、出雲崎町天領の里付近海岸（海水浴場以外）。
1人が沖に流され溺れ、助けに向かった1人も溺れたもの。（2人）
天候 曇 西の風10メートル 波50センチメートル

② 7月27日16時00分頃、藤塚浜海水浴場（波が高く遊泳禁止）。
子ども2人が溺れ、助けに向かった父親も溺れ、沖に流されたもの。（3人）
天候 曇り 西北西の風3メートル 波1．5メートル

③ 8月8日16時00分頃、角田浜海水浴場（14時10分まで遊泳禁止）。
子ども2人が沖に流され、父親が救助に向かい擦過傷を負ったもの。（2人）
天候 小雨 北北東の風2メートル 波0．5メートル

④ 8月25日16時00分頃、藤塚浜海水浴場。
3名遊泳中、沖に流され1名が行方不明となったもの。（3人）
行方不明者については、27日に発見され、死亡が確認された。
天候 小雨 南南西の風2メートル 波1．5メートル

人身事故の傾向と対策

【傾　向】

（九管区内）

- 人身事故者数は昨年より3名増加。死亡者数は5名減少。
- 新潟県内における遊泳中の事故者数が増加。
- 関東地方居住（特に群馬県）の事故者数が増加。
- 離岸流が影響したと考えられる遊泳中の事故者が増加（10名すべて新潟県内）。

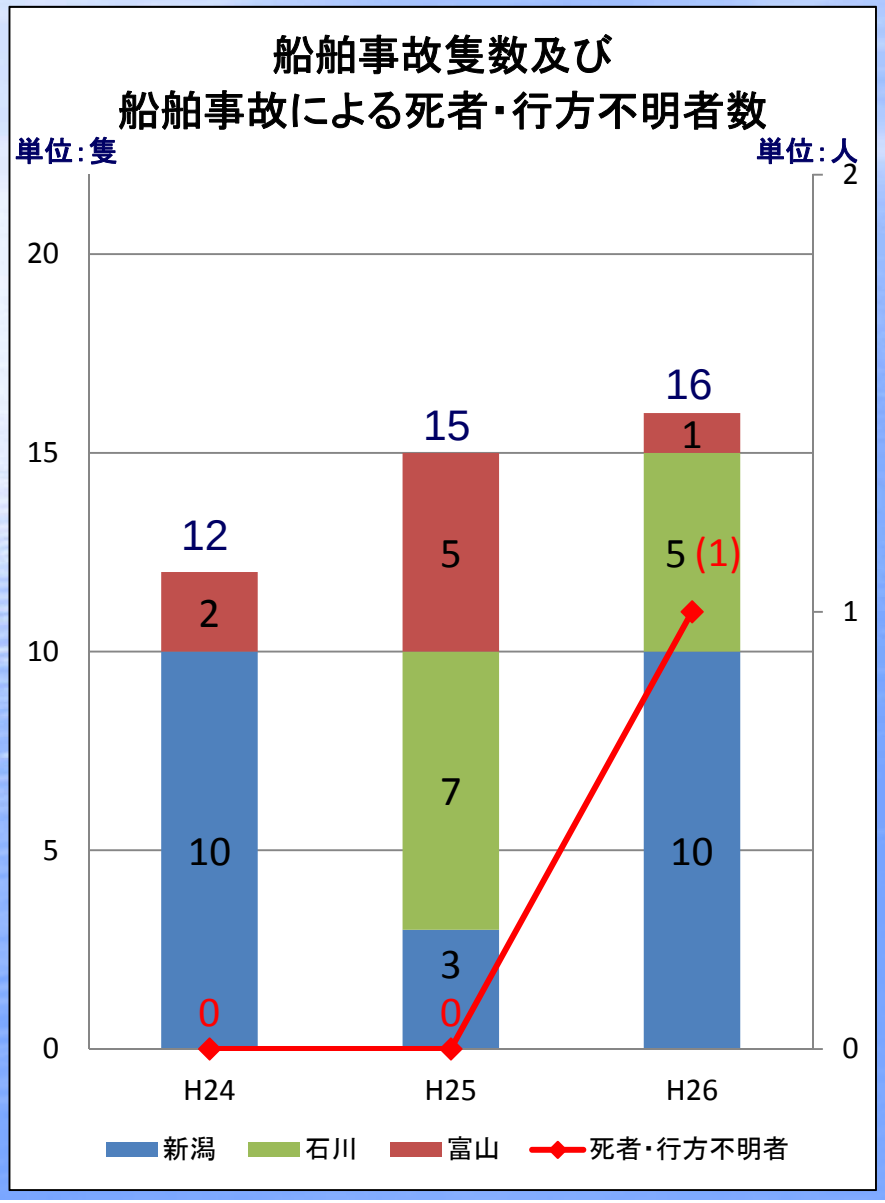
（新潟県内）

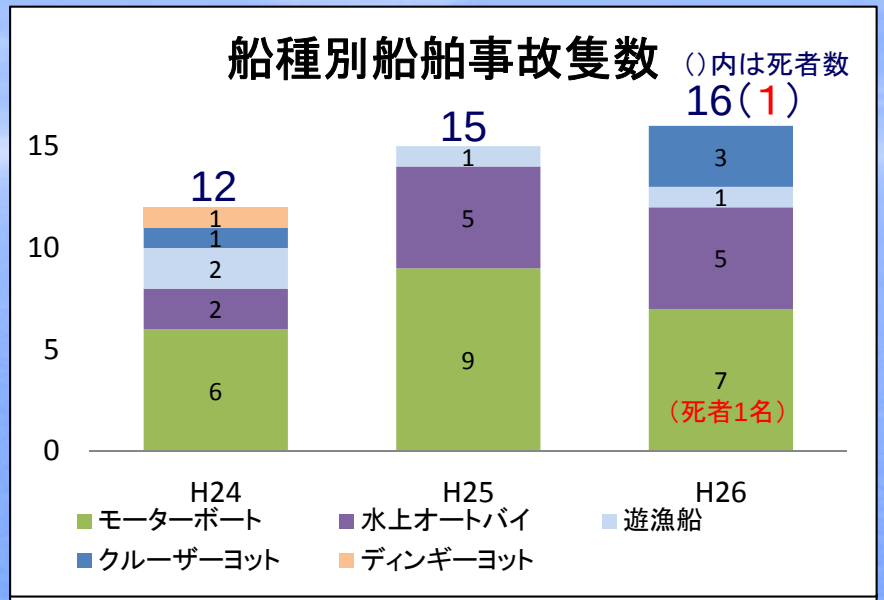
- 県内居住者に比べ、県外居住者は離岸流が影響したと思われる事故が多い。
- 離岸流が影響したと考えられる事故のうち5名は海水浴場以外又は遊泳禁止中の海水浴場で発生。

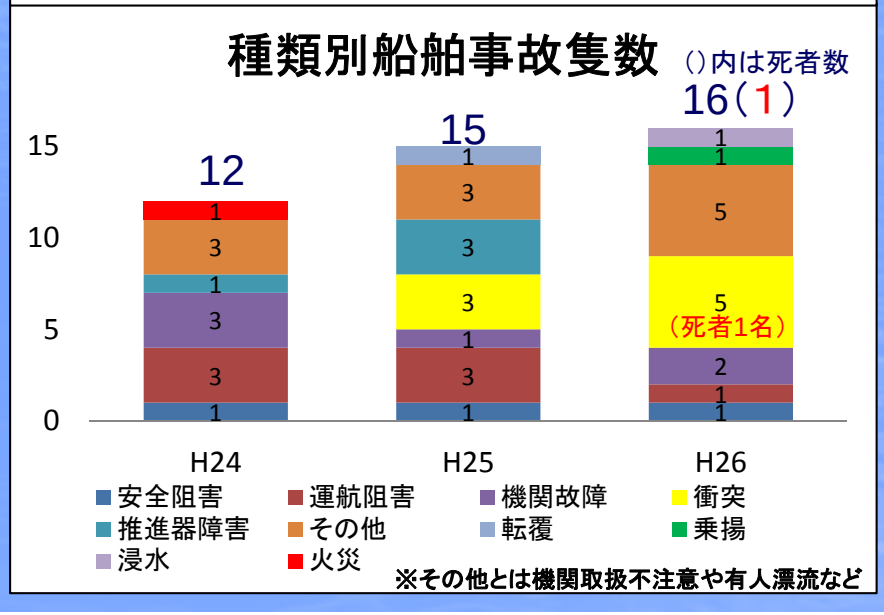
【対　策】

- 天候不良時の遊泳中止、離岸流に対する啓発活動の実施
- 海水浴場での遊泳、管理者の指示の遵守を周知
- 内陸県に対する安全啓発活動の実施

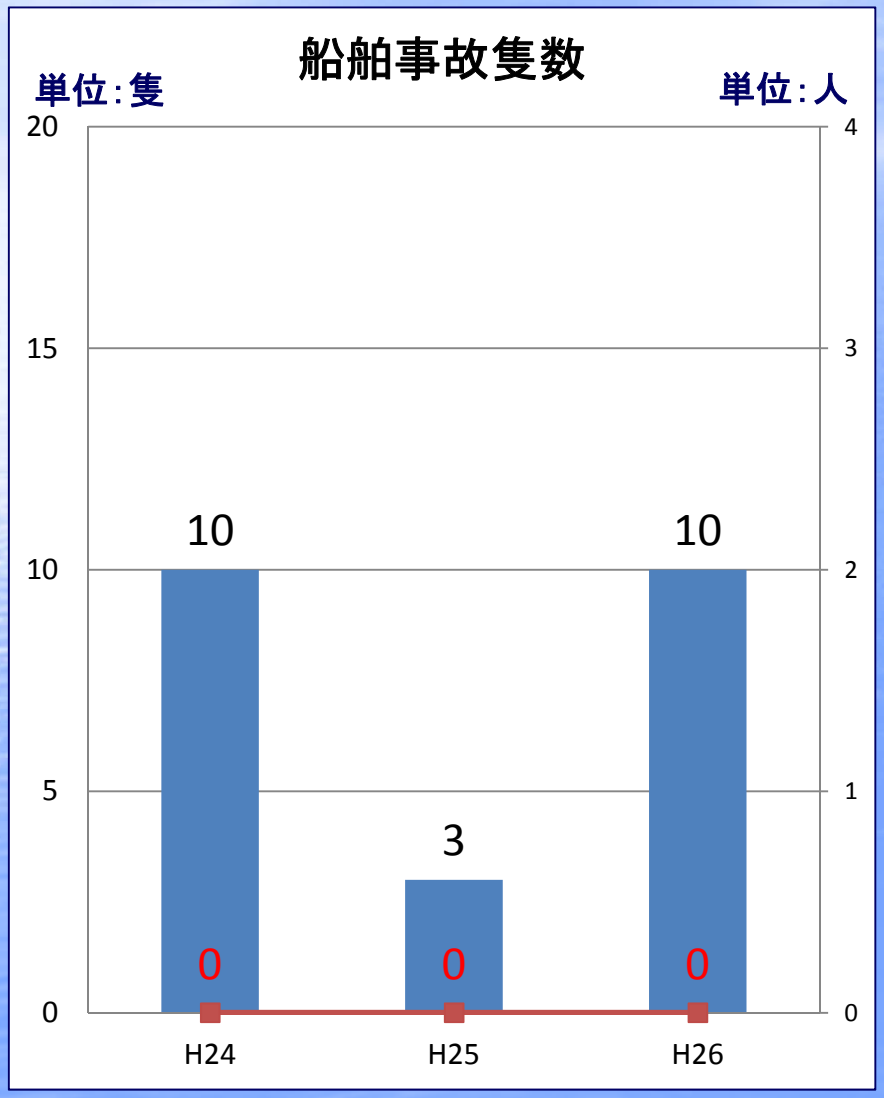
船舶海難
事故発生状況（九管区内）

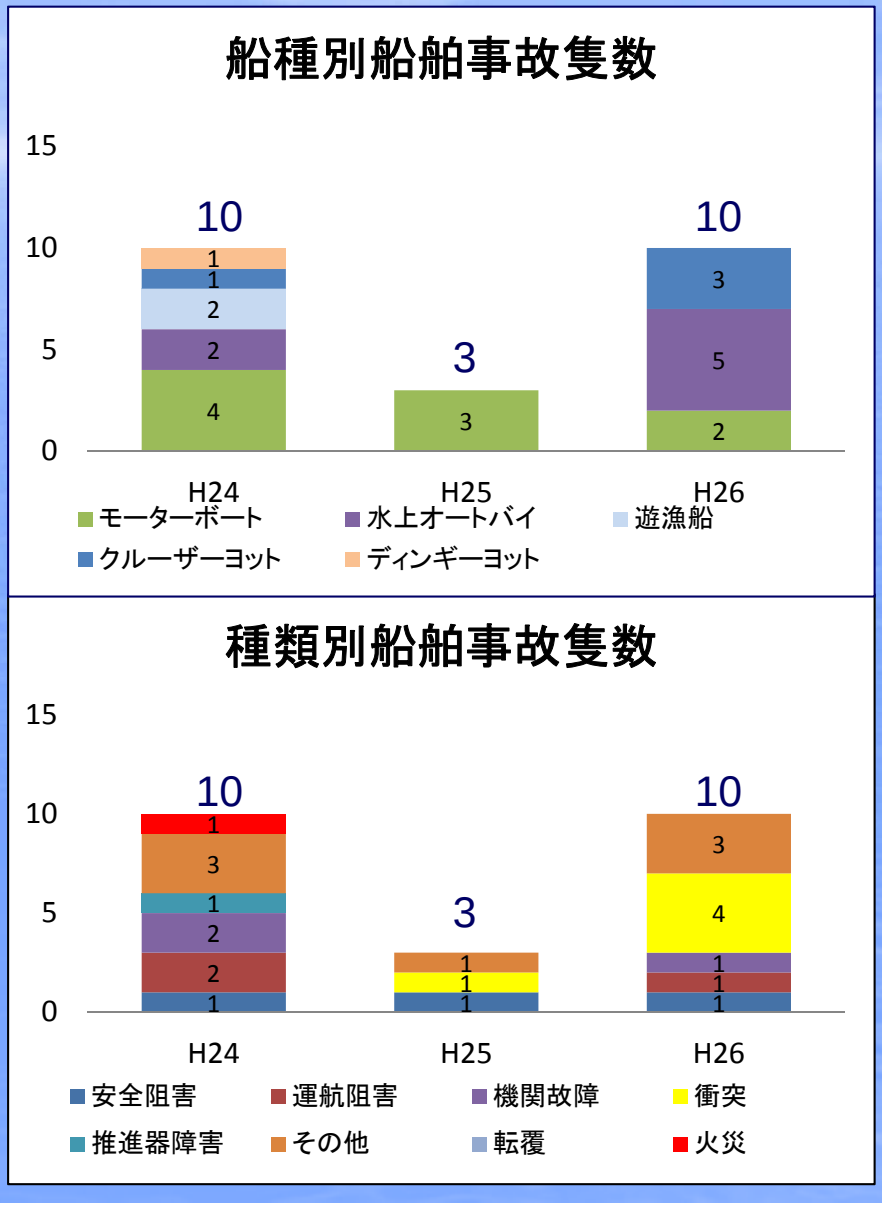






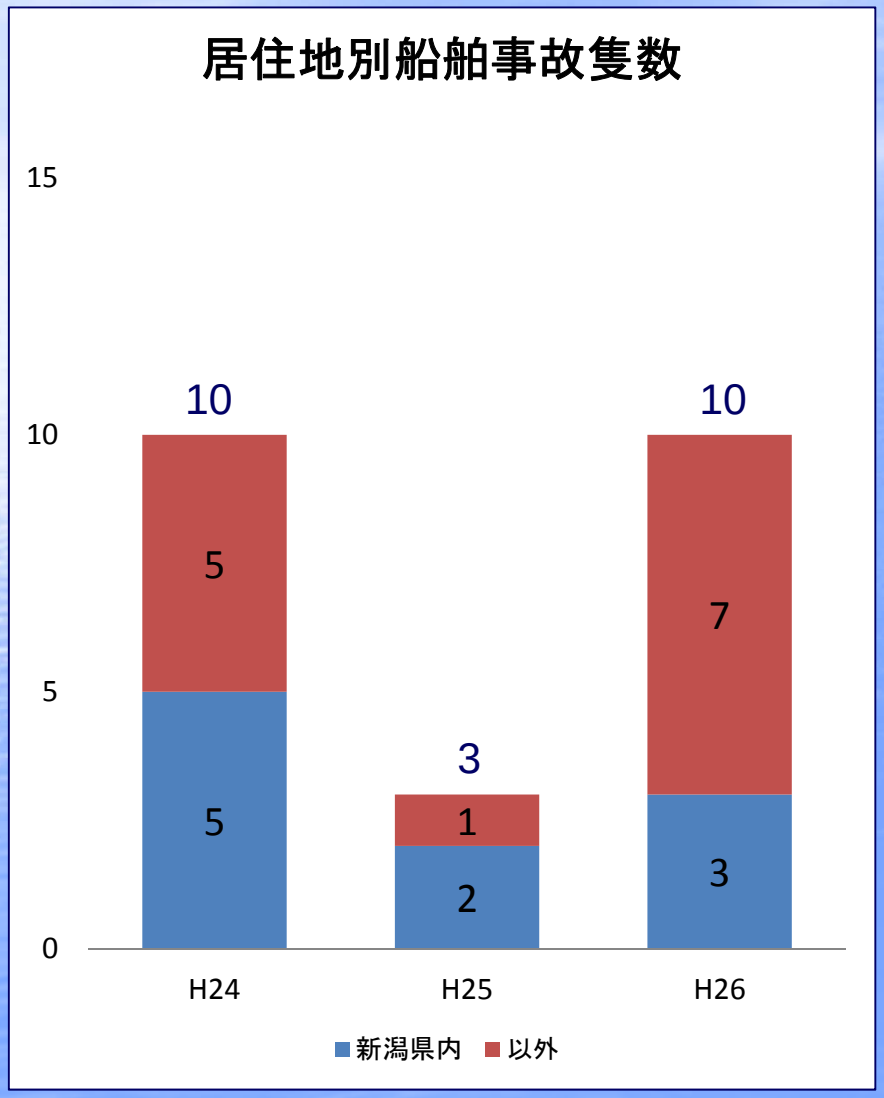
船舶海難
事故発生状況（新潟県内）

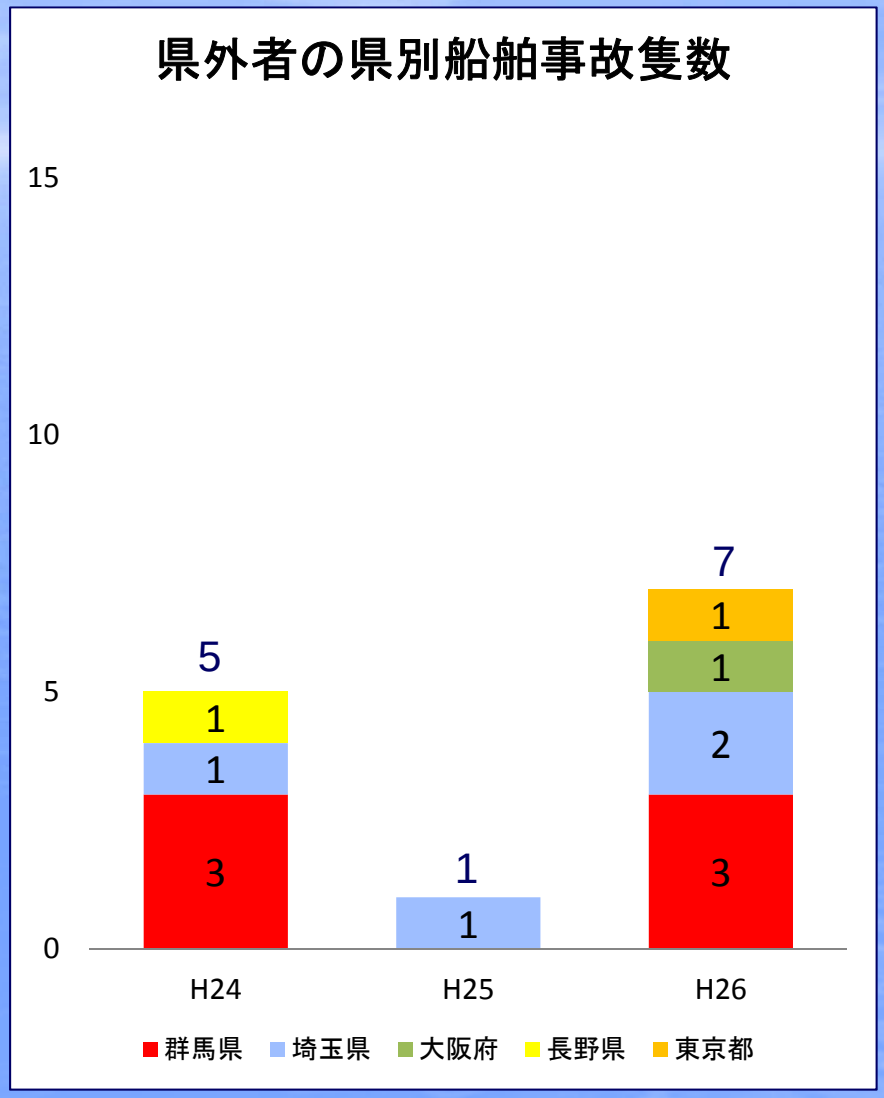




船舶海難

居住地別事故者数（新潟県内）





船舶海難
事故事例（九管区内）

・水上オートバイ同士による衝突　８月１３日　１０:５５頃発生

水上オートバイA（船長　群馬県　男性27歳）は、上越市西ヶ窪浜沖にて友人の水上オートバイB（船長　群馬県　女性 27歳、乗船者　女性21歳）と共に遊走中、水上オートバイAが進路変更のため急旋回した際、後続の水上オートバイBが避けきれず衝突した。

衝突後、水上オートバイA・B船長は無傷で、それぞれの水上オートバイへ上がったが、水上オートバイBの乗船者１名が痛みを訴えており、両船長に救助され、同浜へ戻った。

負傷した乗船者は救急車により病院へ搬送され、入院が必要との診断を受けた。

（負傷者：水上オートバイB乗船者　女性２１歳）

・水上オートバイの機関故障による漂流　８月１９日　１５:５０頃発生

水上オートバイ（船長　埼玉県　男性３９歳、乗船者　男児９歳、女児５歳）は、長岡市寺泊沖にて乗船者２名を乗せ遊走中、突然機関が停止したため再起動を試みたが機関は起動せず航行不能となり、船長及び乗船者２名を乗せたまま漂流した。

船長は携帯電話にて救助を要請し、消防ゴムボートにより最寄りの海水浴場へ曳航され、水上オートバイ及び乗船者は全員無事に救助された。

船舶海難の傾向と対策

【傾向】
・九管区内の発生隻数は１６隻、過去３年と比較してやや増加している、また水上オートバイ及びモーターボートの事故が従前から約7割以上を占めている。

・海難種類別では、衝突が増加している。（過去３年は0隻、３隻、５隻）
また、機関故障や機関取扱不注意による海難が引き続き多く発生している。

・新潟県内の船舶事故は、他府県からの来訪者によるものが7割を占めている。
（群馬県３隻、埼玉県２隻、大阪府１隻、東京都１隻）

【対策】
・衝突については、見張りの徹底や安全航行の指導を重点的に実施。

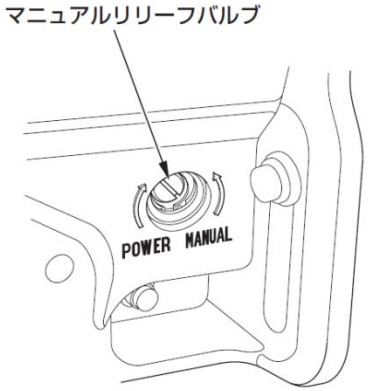
・機関故障や機関取扱不注意については、出航前点検等の安全指導を重点的に実施。

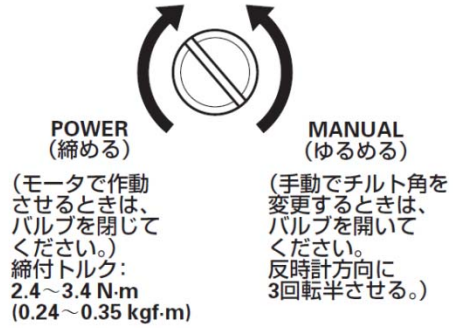
・内陸県に対する安全啓発活動の実施。

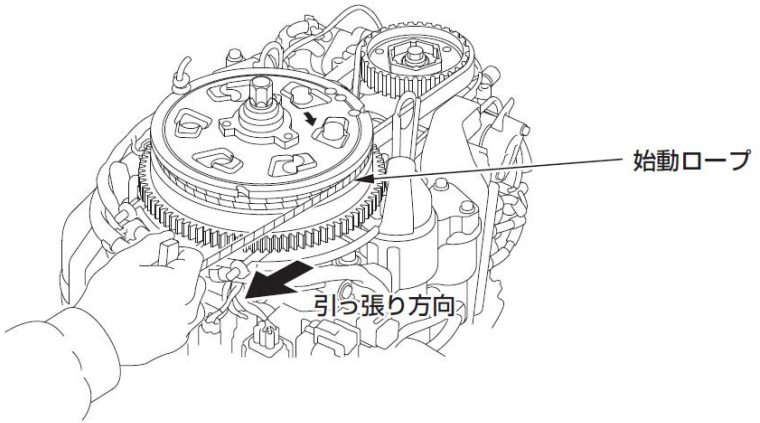
ちょっとした注意と知識で海難を防ごう！

- 過去3年の船舶事故43隻について、出航前点検で防げたもの及び不具合時の対処方法を知っていれば自力復旧が可能だったものが約3割（14隻）を占めている。

事例：船外機のチルトダウンが出来ず、推進力を喪失した。
→手動でチルトダウンする方法を知らなかった。
（船外機取扱説明書に対処方法が記載されている）
：バッテリー過放電により機関の始動が出来なかった。
→メーカーにより、手動にて機関の始動が出来る機種もある。
（船外機取扱説明書に対処方法が記載されている）
：燃料、バッテリーは問題ないが、機関の始動が出来なかった。
→電装系端子の緩み不確認、機関の特性を把握していなかった。







記者懇談会へのご参加ありがとうございました。
本日の発表内容に関するお問い合わせは以下の各担当へお願いします。

・夏季安全推進活動期間におけるマリンレジャーに伴う事故発生状況（速報値）

警備救難部　救難課長　松村　憲治
電話　０２５－２８５－０１１８（内線３２５０）

・その他お問い合わせは、

第九管区海上保安本部　総務部総務課
広報・地域連携室長　上野　正康
電話　０２５－２８８－２６００（直通）まで

来月も皆様のご参加をお待ちしております。